

特集 水稲の低コスト生産を支える経営技術

水稲の低コスト生産を支える経営技術

米価の下落や産地間競争の激化の中、本県の水稲生産農家の収益は減少し続けている。本県の「水稲生産コスト“12,000”実践事業」は、水田農業の生き残りをかけ、低コスト技術の導入や経営手法の改善を図り、全国トップクラスの水稲生産費を

現させようとしている。ここでは、低コスト生産技術として注目されている直播栽培技術をはじめとして、作業の効率化を図る新技術を紹介する。

澤田 富雄（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2410）

疎植、直播を導入した低コスト稲作のポイント

疎植栽培は、収量・品質確保のために刈取適期の見極めが重要である。直播栽培では、目標収量500kg/10a以上を安定的に確保するために、60～100本/m²の苗立ち確保、生育初期の雑草防除と圃場の水管理の技術習得に努める。

内容

（1）疎植栽培

株間を30cm程度（栽植密度10株/m²）まで広げて、移植に必要な苗箱数を減らすことで育苗コストの低減が図れる。一株穂数が増えるうえに一穂粒数も多くなることから成熟期が遅くなる傾向があるので、収量・品質確保のためには刈取適期の見極めが重要である。

（2）湛水直播栽培

代かきした圃場に直接播種するので、育苗コストの低減効果が高い。カルパー（酸素供給剤）を種籾に被覆して土中播種する「カルパー直播」と、鉄粉を種籾に被覆して土壌表面に播種する「鉄コーティング直播」があり、出芽までの水管理が両者で異なる。カルパー直播では、播種後に落水状態で出芽を促す（落水出芽）が、鉄コーティング直播では、播種直後から湛水状態を保って発芽を促す必要がある。目標収量500kg/10a確保には60～100本/m²の苗立ちと雑草防除が重要で、除草剤の使用方法や水管理方法に十分留意する。

（3）乾田直播栽培

畑状態で播種し、苗立ちを確保してから湛水管理する栽培方法なので、育苗コストに加えて、畑作物との輪作で共用する機械経費が削減できる。播種前の耕起・整地を省略する「不耕起乾田直播」では、総労働時間が移植栽培の約60%と、より高い省力効果が見込める。雑草防除や目標収量確保の面から圃場の「水もち」が重要であるため、栽培に適した圃場選定が重要なポイントである。

普及上の注意事項

直播栽培では育苗に関する労働時間や資材の削減効果が期待できるが、生産コスト低減には収量の高位安定化を図る必要があるため、①苗立ち確保：種籾の被覆資材に対応した専用播種機や無人ヘリの有効利用、②雑草防除：除草効果の高い新規除草剤の利用促進、③圃場の水管理：苗立ち確保と雑草防除の両立を図る水管理方法、の技術習得に努める。

牛尾 昭浩（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2410）